

## セッション 2 JICA 交付金(日系社会との連携事業)

- 自国にルーツを有する者との連携が主要諸国に比べて我が国では弱かったと思われる。連携を強化し、日系人としての identity を涵養していれば「広義の日本人」の数を増加させることは、ブラジルをはじめとするラテンアメリカ諸国との友好関係の強化に資するのみならず、人口減少に直面する我が国の国益にも資するものである。
- 国際情勢が流動的になり、中南米諸国と日本との良好な外交関係維持の重要性はますます高まっているところ、これらの国における日系社会は、我が国外交の重要かつ強力なサポーターとなりうるものであるため、本事業の重要は、今後ますます高まるものとする。
- 日系社会における世代交代が進む中で、従来とは異なる手法や切り口を模索している点も一定程度評価できる。
- 中南米における 220 万の日系社会との関係強化については大きな意義を感じる。一方で、1-3 世から 4、5 世と世代が移ることで、人数の増加に反して関係性が薄れていくことが課題であり、プロアクティブで積極的な活動により、関係の維持強化を図ることが出来る。こうした問題意識を持って、推進室を設置するなど取り組みを強化している。
- 日系人のいるラテンアメリカ諸国間での横の連携をすすめて頂くことは大いに結構である。
- 日本国内に在住する日系人は 27 万人であり、工業地域を中心に集住しつつも分散している状況と認識している。集住都市のいくつかでは基礎自治体の個別の事業として、生活や教育面でのサポートを行っているが、個別自治体の経験に閉じている面もある。外国人との共生を外交戦略として考える上では、外務省・法務省・厚生労働省・文部科学省との連携を通じたより包括的・全国的なプロジェクトを考える必要があるのではないか。
- 現地の日本人駐在員コミュニティ、あるいは、現地に進出している日系企業との連携についても一定程度取り組んでいるとのことであるが、JICA 以外の政府系機関とも連携して、引き続き新たなことができないか検討・工夫を続けてもらいたい。
- 日系人が多く居住する地方自治体と JICA との一層の連携強化が望まれる。
- 大学でスペイン語を第 2 外国語として選択する者が増加していることにも鑑み、日系人と日本人学生の国内での交流を増大させるとともに、ラテンアメリカ諸国への日本人留学生の数を重点的に増加させ、現地及び国内の双方で日系人との連携を強化することが望まれる。
- 連携事業は一層強化することが望ましい。横浜の海外移住資料館では WEB 上で virtual tour ができるような工夫があると良い。
- 全体にアウトカムの設定に課題があると感じる。効果測定が難しい部分はあると思うが、双方の理解がどの程度進み、共生などの実現がどの様に進んでいるかを測りながら、より効果の高い施策を打つべきである。推進室の設置など前向きな取り組みが進んでおり、今後の改善に期待する。
- 中南米日系推進室の立ち上げ図とともに、事業のさらなる発展を期待する。今回作成いただいたセグメントシートについては、今後定量指標(アウトカム)等の充実が必要であるとする。
- 国際協力事業の中で「日系社会との連携」に関して特化した取り組みを推進することは重要であるが、連携推進室が立ち上がったばかりであり、事前に設定した目標達成というよりも、現状追認型の行政事業レビューシート報告となっている。
- 日系リーダー育成、移住者団体に対する助成、海外移住資料館における展示企画などのレビューシートの活動項目において「目標」「成果」が同数であり、「成果」にあわせて後付けで「目標」を作っているようにもみうけられる。年度ごとの実施数にも波があり、一定程度長期的(例えば 5 年後)などの目標を設定して目指す活動を明確化すべきではないか。

- 公開プロセス用に作成された資料と行政事業レビューシートの内容とに乖離が生じている。行政事業レビューシートのアウトカムは重要な記載であるので、それぞれのアクティビティについて(同一な記述ではなく)各アクティビティの特質を踏まえた適切かつ十分な記載を行うべきである。